



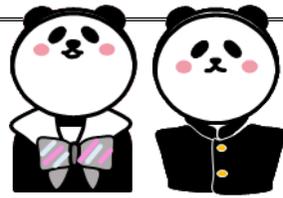
岡山市立岡輝中学校 学校通信 第12号
 発行者 岡山市北区岡町12-17 花房 朋子
 発行日 令和6年2月19日(月)



岡輝中HPへgo!

岡山市教育に関する総合調査の結果より

今年度11月、生徒・保護者・教職員を対象に岡山市教育に関する総合調査を行いました。この調査は平成26年度より、教育の取組を効果的に進めるために、岡山市で一斉に各学校園で実施しているアンケート調査です。その結果を受けて、1、2月の岡輝中学校区学校運営協議会にて分析・改善に向けた話し合いを行い、来年度の学校の方針や教育活動の在り方について協議しました。



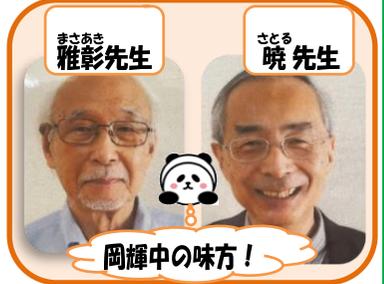
【アンケート結果より】

- 学校に行くのが楽しい…生徒 74.6%、保護者 80.4%(と言っている)
 ⇒ 肯定的な回答が7割を超え、「行きたい」と思える学校になりつつある。
- 岡輝中学校の行事は楽しい…生徒 84.5% (R4は 79.1%)
 ⇒ 今年度の重点取組の「生徒主体の行事や活動」が定着してきたことが結果につながっている。
- 係や当番の仕事に積極的に取り組んでいる…生徒 81.3% (R4は 79.1%)
- 掃除に時間いっぱい取り組んでいる…生徒 88.6% (R4は 79.7%)
 ⇒ 昨年度を上回る8割以上の生徒が肯定的に回答。道徳や学級活動、生徒会活動を通じた自己肯定感の醸成に向けた取組が結果につながっている。
- 学校の授業は分かりやすく楽しい…生徒 73.6%、保護者 62.0%(と言っている)
 ⇒ 7割以上の生徒が肯定的に回答している。岡山市の平均を2ポイント上回っている。
- 協同学習での「学び合う」授業は分かりやすく楽しい…生徒 68.9% (R4は 77.5%)、保護者(と言っている) 62.0% (R4は 70.1%)
- 協同学習の授業は、わからないところが聞きやすい…生徒 73.6% (R4は 75.9%)
 ⇒ いずれも昨年度を下回った。授業を進める上での約束の再確認と発問やワークシートの工夫、家庭との連携を通して、学校全体で主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりに取り組むことで改善を図る。
- 岡輝中の先生・生徒はいじめを許さない…生徒 86.0%
- 私はいじめを許さない…生徒 88.1%
- 岡輝中学校はいじめに真摯に向き合うとともに、いじめが起きにくい取組をしている…保護者 75.5%
- いじめの早期発見・早期対応するとともに、生徒と共にいじめが起きにくい学校づくりをしている…教職員 100.0%
 ⇒ 日々の学級指導や生徒同士の結びつきを大切にする授業づくり、一人一人を大切にする丁寧な関わり等、人権教育への注力の成果が現れている。
- 家で苦手な教科の勉強をしている…生徒 44.0% (R4は 55.1%)
- 自分で計画を立てて勉強している…生徒 37.8% (R4は 50.8%)
 ⇒ 昨年度より10ポイント以上下がり、肯定的に回答した割合が5割を下回った。
- お父さんは、毎日1時間以上家庭学習に取り組んでいる…保護者 39.3% (R4は 45.2%)
 ⇒ 肯定的に回答した割合が4割を下回っている。家庭学習が定着していないことがわかる。長年にわたって本校の課題である。一層家庭と学校との連携を図り、より具体的な取組を推進していく必要がある。
- 岡輝中学校区の学校園は、連携が進んでいる…保護者 85.3%
 ⇒ 生徒会による読み聞かせ活動や、地域協働学校の取組、中でも音楽イベント「つながれ岡輝」の復活など、様々な面での積極的な交流による成果が現れている。

第3回公開授業研究会

2月13日(火)令和5年度第3回公開授業研究会がありました。今回は、岡輝中学校区の保育園、こども園、小学校の先生方をはじめ、広島県や大阪府、京都府、愛知県など県外からのお客さまもたくさんお迎えした研究会となりました。

今回も岡輝中学校の協同学習について、専門的な立場から指導をいただいている先生方がいらっしゃいました。元静岡県富士市立岳陽中学校長の佐藤雅彰先生と岡山大学大学院教育研究科教授の佐藤暁先生です。両先生とも、長年にわたって岡輝中学校の協同学習の取組に関わってくださっています。お二人とも、「しっかりグループで課題に取り組んでいる」「一人一人が学びを深められている姿が増えた」「互いの考えやわからないことを言い合える関係ができていく」など、みなさんの成長に驚かれていました。岡輝中をずっと見守ってくださったお二人の先生に褒めていただき大変嬉しかったです。岡輝中学校の先生達にとっても、自信や次へのやる気にも繋がります。もっとレベルの高い協同学習を目指して頑張ります!



岡輝中の味方!

以前、新聞を読んでいて、こんな内容の投書に出会ったことがある。
 投書の主は、通勤ラッシュの電車内だった。そのとき、四十歳前後の会社員らしき男性が座っている席の前に、まるでつり革にぶら下がっているように立っている八十歳くらいのおばあさんを見かけたのだという。
 そこで、勇気を出して男性に向かい、「お仕事でお疲れだと思いますが、よろしければおばあさんに席を譲っていただけませんか」とお願いした。すると男性は、「気がつかず大変申し訳ないですね」と言っていて、すぐにおばあさんに席を譲ってくれた。

ほっと胸をなでおろし、勇気を出してよかったと思っていた投書の主は、ある駅で、その男性が下車する姿を見てがく然とする。男性は足が不自由であったのだ。慌てて「気がつかなくてすみませんでした」と謝ったところ、男性は「私こそ早く気がつければよかったのに」と笑顔を残して人混みの中に消えていった、という内容だ。
 投書の主は、男性の笑顔にどれほど救われたことだろう。
 好ましい社会のあり方とは、このようなものではなにかと考えるとせられた投書だった。

14 島耕作 ある朝の出来事

弘兼義史さんの作品「課長 島耕作」に、次のような話があります。
 朝の通勤ラッシュの車内。老婦人が腕に重そうなたんぽうをぶら下げ、立って居る。さういふ姿に、男の無神経さは、老婦人を驚かせた。島耕作は、男の「すみませんが、こちらのおばあさんが少し疲れていらっしゃいますので、できましたら、席を譲ってあげていただけませんか」といふので、

「あ、こちらすみません。気がつかずかたがたもんで……」と、当然、そう言いつつ、即座に立ち上がった。男は、

「冗談じゃない。疲れているのはこの老婦人だけじゃない。私だって疲れているんだ……私は昨日からずっと仕事で二時間しか寝ていないんだ。人の事情も知らなくて、勝手なことを言わんでくれ。」と反論してきた。怒った島耕作は、

「そんなことは知ったことじゃないです。この満員電車の中で、のうのうと新聞を広げて読んでいるくわりの元気があるのなら、席を代わってあげてもいいんじゃないかと思っただけですよ。」と言いつつ、

「君! 私ね、席を譲るために、始発駅のホームで二十分も立って並んだんですよ。私は席を譲る権利があるんだ。そうやってやっとなんか入れた席を、たつた今来たこの人に譲らなきゃならないだろ?」と、男は、

「権利とか、そういう問題じゃないでしょう! 要するに、あなたの気持ちのいい悪いを言っているんですよ。」島耕作はますますムキになっていく。

この話は、このあと、近くの人が老婦人に席を譲って一件落着くわけなのですが、あなたはどう思いますか。次の話見比べてみてください。

今回の5時間目の代表公開授業は、秋山先生による1Aの道徳の授業でした。マンガ『課長 島耕作』の「ある朝のできごと」という話と、それに関連した新聞の投書を題材に、思いやりについて考える授業でした。グループでは、いろいろな立場によって感じることや考えが異なることや、どのような選択をすれば誰もが気持ちよく過ごせるのかなどについて議論しました。授業では仲間のいろんな意見に触れ、自分の考えを深めることができました。1Aのみなさん、秋山先生、本当にお疲れ様でした。

岡輝中 PTA 新聞 快挙!!

令和5年度岡山市 PTA 新聞コンクールにおいて、岡輝中学校 PTA 新聞『岡輝』が「岡山市 PTA 協議会長賞」を受賞しました! 2月13日(火)、岡山市役所にて表彰式が行われ、広報委員長の久積さんと副会長の浅野さんが代表で参加してくださいました。広報部のみなさん、素敵な新聞を制作してください、ありがとうございました。

大森会長より授与

三宅教育長と...